

新国立競技場新営工事（スタンド工区）の調達に係る 技術提案書の審査結果について

独立行政法人日本スポーツ振興センター

1. 調達について

新国立競技場新営工事は、技術的に難易度が高く、実施設計段階から施工する側の技術者を参画させ、工事施工を見据えた検討に基づき課題を解決して、綿密な計画の下で確実に工事を進める必要がある。

このため、スタンド工区、屋根工区について、それぞれに高い施工能力を有する者から技術提案を求め、審査を経て選定し、選定された者と実施設計段階において工法等の協議を行い、仕様を確定させた上で工事請負契約を締結することとした。

新国立競技場新営工事（スタンド工区）の技術提案書等の審査については、技術提案書の提出者の技術力、経験、創造性、理解度等を審査の上、本業務の内容に最も適した者を選定するプロポーザル方式によって行った。

2. 技術提案書の審査

（1）審査の体制等

中立かつ公正な立場で審査を行うため、新国立競技場新営工事の調達実施方針策定及び技術提案等審査委員会（以下「委員会」という。）、その下に技術審査委員会を設置した。

本新営工事に関わる各技術分野を専門とする学識経験者7名で構成される技術審査委員会が、提出者名等を伏された技術提案書、及び配置予定技術者等に対する技術提案書に関するヒアリングを基に、業務の実施方針、課題についての提案等について審査を行った。

審査結果は、技術審査委員会から委員会に報告し、決定されたものである。

（2）評価の方法

審査は、公示時に配付した技術提案書作成要領に記載している評価項目、評価基準、配点等に従って、評価項目毎に、各技術審査委員がA（特に優れている）、B（優れている）、C（やや優れている）、D（普通である）、E（やや劣る）の5段階で評価を行った。各評価項目の配点に、5段階評価に応じた係数（1.0, 0.8, 0.6, 0.4, 0.2）を乗じて数値換算して評価点を算出した。なお、技術提案書に評価項目に関する記載が無い場合は、F（評価なし）とし、係数は0とした。

（例）配点60点の評価項目について、評価がB（係数0.8）であった場合、

配点60点 × 係数0.8 = 評価点48点 となる。

評価項目ごとに各技術審査委員の評価点の平均を算出し、評価点の合計点が最も高い者から順位を付けて審査結果として取りまとめた。

3. 評価の結果

評価の結果は、別表・評価点集計表のとおりである。

4. 今後の予定

技術提案書の評価が最も高い大成建設株式会社（B者）と基本協定を締結し、速やかに技術協力業務委託契約を締結する。その後、工法等の協議を経て見積合わせを行い、工事請負契約締結を締結する予定である。

工事請負契約締結後に、委員会及び技術審査委員会の委員名を公表する予定である。

（審査にかかる過程）

日 程	
平成 26 年 8 月 18 日	プロポーザルの公示
平成 26 年 9 月 8 日	競争参加資格確認申請の締め切り（提出数：4 者）
平成 26 年 9 月 10 日	競争参加資格確認の通知（通知数：4 者）
平成 26 年 10 月 10 日	技術提案書の提出の締め切り（提出数：3 者）
平成 26 年 10 月 16 日	技術提案書及びヒアリング審査
平成 26 年 10 月 24 日	最も優れた技術提案書の提出者の選定

<審査結果>

1. 総評

新国立競技場新営工事（スタンド工区）の技術提案書は3者から提出された。技術審査委員会において、本業務の内容に最も適した者を選定するため、技術提案書の提出者の技術力、経験、創造性、理解度等の審査を行った。

審査は、技術提案書及び配置予定技術者に対するヒアリング等を基に行い、本工事にかかわる理解の深度、業務の実施方針、課題の特定及び解決に関する検討内容、実施設計に協力していくための技術力、経験、創造性、コミュニケーション能力等について総合的に評価した。特に、①工事費を抑え、目標工期内に完成・引渡すこと、②東日本大震災の復興事業や2020年東京オリンピック・パラリンピック等に向けた建設需要の増加、これに伴う技能労働者の不足、本計画が建設市況全体に与える影響に配慮した取組の姿勢、取組方針に留意して評価した。

提案した3者は、真剣かつ詳細に検討した上で技術提案をされており、その多大なる努力に敬意を表する。3者とも本工事に求められる技術的に高度な課題に対して、熱意を持って柔軟に対応する姿勢を示している。特定された者には、今後の技術協力業務及び工事施工において、発注者、発注者支援者、設計者と協力しながら、目的を完遂するべく取り組まれることを期待する。

2. 技術提案に対する委員の意見

○大成建設株式会社（B者） 【技術提案書の評価が最も高い者】

- ・ 業務の実施方針、課題についての提案に関して、検討範囲がとりわけ広範で多岐にわたり、その密度も高い。
- ・ スタジアム工事の経験者で構成する実施体制が構成されており、工事の安全に配慮しながら、綿密な工程シミュレーションにより、時間軸の中で、必要な経営資源を精密に予測することにより、昨今深刻に不足する技能労働者確保には特に留意している。
- ・ 加えて、構工法の工夫や、資材の早期発注などにより、目標工期内の完成・引渡しやコスト縮減について現実性の高い計画が提案されている。
- ・ 実績や経験から得られるノウハウや最新技術を活用し、特に基礎、免震、スタンド計画に生じる技術的課題を解決できる具体的な提案が多数示されており、特に優れている。
- ・ 屋根工区の基本協定締結者と、実施設計段階から連携する体制が示されており、施工計画は屋根工事に特段の配慮を行い、余裕日を確保して柔軟に対応する提案である。

○清水建設株式会社（A者） 【次点】

- ・ 業務の実施方針、課題についての提案に関して、緻密に検討した改善提案がなされている。工事の安全に配慮しながら、目標工期内の完成・引渡しやコスト縮減、技能労働者確保には特に留意している。
- ・ 実績や経験から得られるノウハウや最新技術を活用し、技術的課題の解決に向けた検討が示されている。ただし、B者に比べ、検討の範囲が限定されている。
- ・ 屋根工区についても特定の工法を想定し、よく調整のとれた工期・施工計画が提案されているが、屋根工区に想定外の工法が採用された場合の対応については、具体性のある配慮が示されていない。

○株式会社大林組（C者） 【次々点】

- ・ 業務の実施方針、課題についての提案に関して、工事の安全に配慮しながら、よく検討されている。
- ・ 設計内容や調達方法について大きく踏み込んだ大胆な提案により、本工事の完成の実現性を高めている。
- ・ 技能労働者の確保を確実にするために複数社で工事施工する提案をしているが、自社の責任において工事全体を施工することについて、確認することができない。

(別表) 新国立競技場新営工事 (スタンド工区) 評価点集計表

項目		満点	清水建設 株式会社 次点 (A 者)	大成建設 株式会社 (B 者)	株式会社 大林組 次々点 (C 者)
担当予定 技術者の能力	監理技術者の資格	60	51	50	43
	同種工事の実績				
技術提案書の 提出者の能力	同種工事の実績				
業務の 実施方針	業務の実施方針	60	46	48	24
	業務の実施体制				
	予定専門工事会社の選定手法				
課題について の提案	工程計画・施工計画、スケジュール管理手法についての提案	70	56	60	38
	コスト管理・コスト縮減の手法についての提案	70	50	56	48
	スタンド躯体計画に関する提案	120	93	103	72
	可動機構(伸縮型可動スタンド)、ピッチの転換機構の計画に関する提案	60	55	55	38
	その他の課題、問題点等に対する解決方法の提案	60	45	51	38
ヒアリング		100	77	89	51
合計点		600	473	512	352
順位			2	1	3